

令和3年度 大田区立馬込第二小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

本校は、児童数445名(令和3年4月1日現在)、通常学級14学級、特別支援学級(若竹学級)2学級の中規模の小学校である。環状七号線の外側に少し入った閑静な住宅地の中に学校がある。保護者や地域の方々は学校に協力的であり、温かい雰囲気の中での支援に支えられて学校教育すすめることができている。今年度は、教育目標の重点目標を「心豊かで思いやりのある子」として、教育活動をすすめている。昨年度より、プログラミング的思考を主眼とした研究をしてきた成果を引き継ぎ、「考えよう やってみよう 伝え合おう」を研究主題として横断的に各教科を通しての研究をすすめている。教員一人ひとりがICT機器を効果的に活用できる資質の向上が必要であると考え研究の副主題として「ICT機器を効果的に活用した指導法の工夫」と設定して普段の授業実践につながる研究をすすめていくこととした。2021年実施する東京オリンピック・パラリンピックを受けて児童一人ひとりが、海外に目を向ける日本人として自国と他国の文化を尊重する教育の推進を図っていく。そして、学校支援地域本部の協力を仰ぎ、緑のボランティア、こうまクラブの読み聞かせなど学校の内外において地域との密接な関係をこれまで以上に築き、児童(保護者)・地域・学校が生き生きと過ごすことができる環境作りをめざしていく。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	学校関係者記入欄	
							評価	人数
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にシなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3.4	きと自分生活に自信をもち、答えた児童の割合	4: 90%以上	A	1
			3:80%以上が回答した。					
			2:60%以上が回答した。					
			1:60%未満であった。					
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。	3		3: 80%以上 90%未満	B	7
			3:80%以上の教員が行った。					
			2:60%以上の教員が行った。					
		1:60%未満であった。						
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。	3.9		2: 60%以上 80%未満	C	
			3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。					
			2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。					
		1:60%未満であった。						
他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。	3.5	1: 60%未満	D				
	3:80%以上で行った。							
	2:60%以上で行った。							
1:60%未満であった。								
体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。	3.2	4					
	3:80%以上の教員で行った。							
	2:60%以上の教員で行った。							
	1:60%未満であった。							
自ら考え、その考えを発信するための情報を学習や経験、体験から得られる授業を実施する。	4:全教員で行った。	3.5						
	3:90%以上の教員で行った。							
	2:75%以上の教員で行った。							
	1:75%未満であった。							

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	学校関係者記入欄	
							評価	人数
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3.3	業 取 組 を 理 解 し て い る と 答 え た 割 合 が 授 合 る か、 教 員 が 豊 か な 心 を 育 む 取 り 組 み が 実 施 さ れ、 児 童 の 規 則 を 守 っ て い る 意 識 が 95%以上	2	A	3
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2~3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	2.3			B	5
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	3.7			C	
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3.3			D	
		知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成、学びに向かう力等を身に付けるための指導計画を立て、児童の意欲を高める授業づくりをする。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:90%以上が回答した。 2:75%以上が回答した。 1:75%未満であった。	3.3				
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	2.8	合 る か、 教 員 が 豊 か な 心 を 育 む 取 り 組 み が 実 施 さ れ、 児 童 の 規 則 を 守 っ て い る 意 識 が 95%以上	3	A	4
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3.6			B	4
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3.7			C	
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	3.6			D	
		子ども一人一人が生き生きとした活動をするためのチェックシートをもとに、年に二回確認をして、意識化を図る。	4:全教員が意識化を図った。 3:90%以上の教員が意識化を図った。 2:75%以上の教員が意識化を図った。 1:75%未満であった。	3.7				

